

2022年12月期 第3四半期決算



補足説明資料

株式会社テクノフレックス
証券コード:3449

- ✓ 本資料に記載された将来の見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき作成されたものであり、将来発生する様々な要因により、異なる結果となる可能性を含みます。
- ✓ 2018年12月期は、決算短信、有価証券報告書、四半期報告書及び連結計算書類を作成していないため、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づき作成した連結財務諸表の数値を、参考情報として記載しております。
- ✓ 2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)を適用しており、2022年12月期の業績予想(計画)も、当該会計基準を適用した後の数値を記載しております。
- ✓ 2021年12月期の実績は「収益認識に関する会計基準」を適用する前の数値を記載しております。
- ✓ 2022年12月期と2021年12月期以前とを比較した記載は、会計基準が異なることから、参考情報として記載しております。
- ✓ 2022年4月1日付で、連結対象の完全子会社「株式会社アクアリザーブ」と合併いたしました。これに伴い、当期第1四半期までは「防災・工事事業」としておりました「防災用貯給水タンク」の業績を、当期第2四半期から「継手事業」にセグメント変更いたしました。そのため本資料では、セグメント変更後の数値を、参考情報として記載しております。

1. 2022年12月期 第3四半期決算概要

2. 2022年12月期 業績予想

3. SDF工法の状況

(補足資料)
テクノフレックスの概要



1. 2022年12月期第3四半期決算概要

2022年12月期 第3四半期 連結業績 1 前年同期比・計画比



◆ 連結業績(前年同期比・計画比)

	連結業績		前年同期比		通期計画	
	2021_3Q	2022_3Q	伸長額	伸長率	計画値	進捗率
連結売上高	14,023	16,306	+2,282	+16.3%	20,650	79.0%
連結営業利益	1,962	2,143	+181	+9.2%	2,500	85.7%
親会社株主に帰属する 当期/四半期純利益	1,227	2,020	+793	+64.6%	1,850	109.2%

● 連結売上高

- ✓ 当期3Qは、主力の継手事業で、新潟県村上市における降雨災害と、中国天津市における新型コロナウイルス感染拡大によるロックダウンから、神林工場と天津工場が一時操業停止となりましたが、売上への影響は軽微でした。
- ✓ グループ全体では、全ての事業セグメントの売上が、前年同期比プラスとなっております。
- ✓ その結果、連結売上高は、前年同期比+2,282百万円(伸長率+16.3%)となりました。

● 連結営業利益

- ✓ 円安要因を含む原材料価格の上昇等により、利益率は低下しましたが、連結売上高の増加により、連結営業利益が増加しました。
- ✓ その結果、連結営業利益は、前年同期比+181百万円(伸長率+9.2%)となりました。

● 親会社株主に帰属する四半期純利益

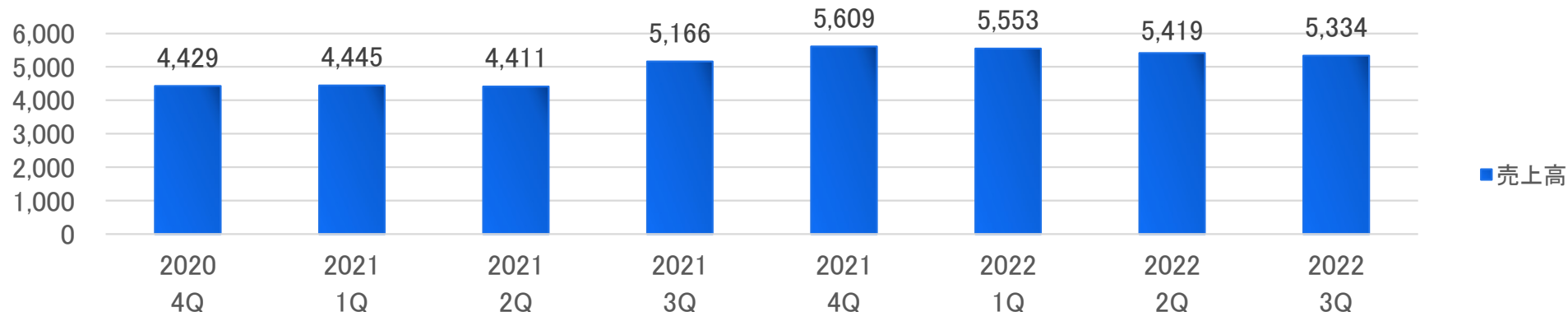
- ✓ 連結営業利益の増加と、当期4月1日付で連結子会社であった(株)アクアリザーブを吸収合併したことによる税効果の影響から、増益となりました。
- ✓ 8月の降雨災害による神林工場の災害復旧費用と、9月に着工した千葉工場の建替工事に係る費用を、計上しています。
- ✓ その結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比+793百万円(+64.6%)となりました。

2022年12月期 第3四半期 連結業績 2 四半期業績の推移



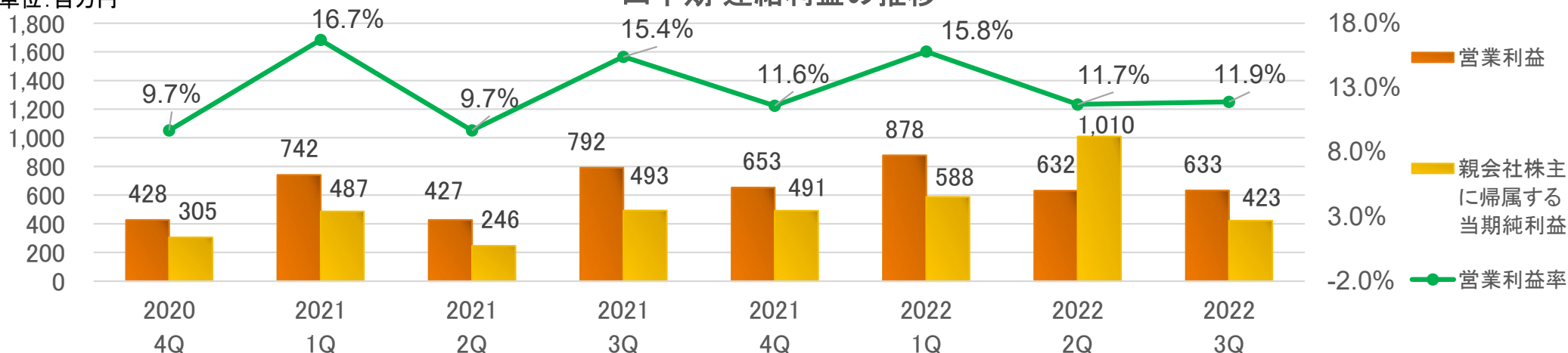
単位:百万円

四半期 連結売上高の推移



単位:百万円

四半期 連結利益の推移

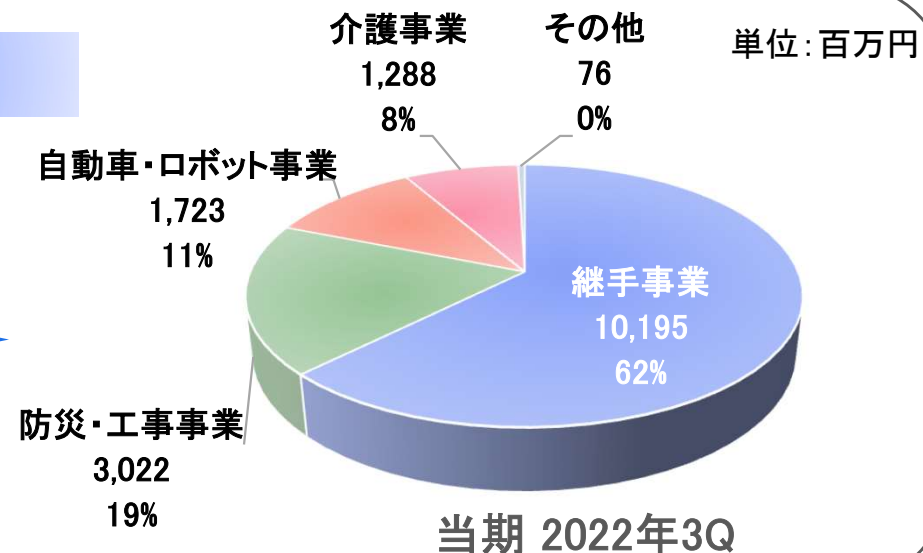
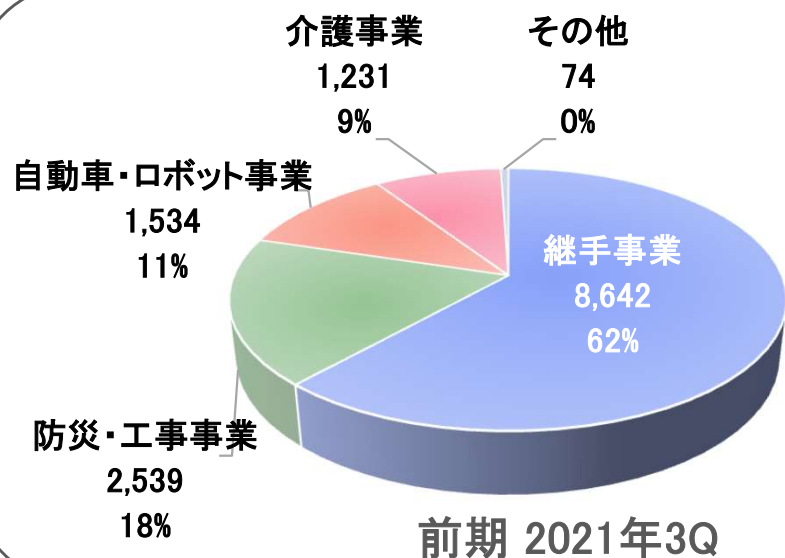


- 円安と原材料価格高騰の影響から、主力の継手事業の営業利益率が低下していますが、防災・工事事業の営業利益率が向上し、連結の営業利益率を下支えています。また、売上高が高い水準で推移しているため、3Q累計の営業利益も増加し、前年同期比で増収増益となっています。
- 2022年2Qの親会社株主に帰属する四半期純利益が多いのは、連結子会社であった(株)アクアリザーブの吸収合併に伴う税効果によるものです。

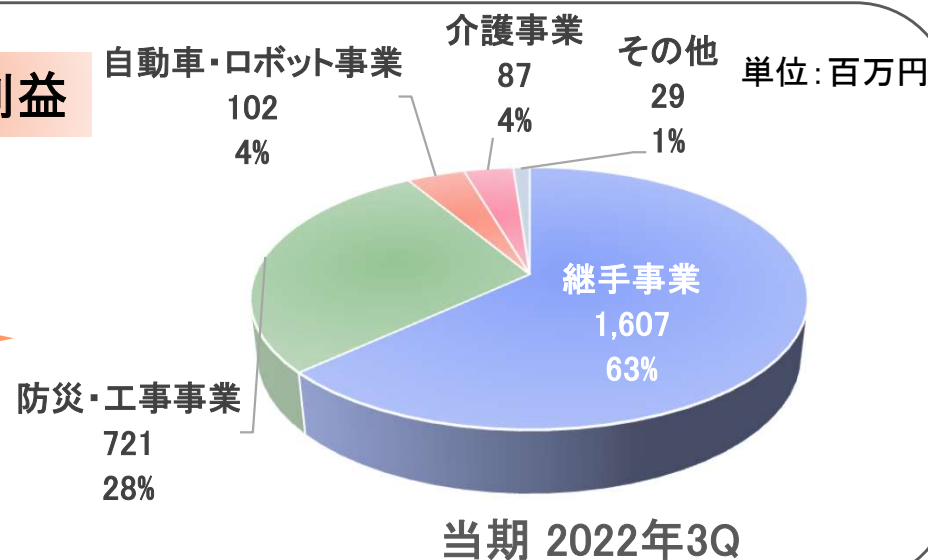
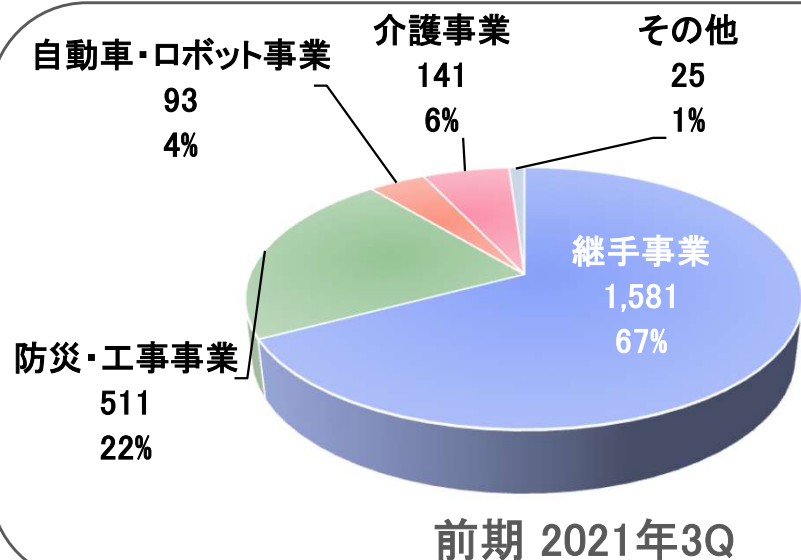
2022年12月期 第3四半期 セグメント構成比



売上高



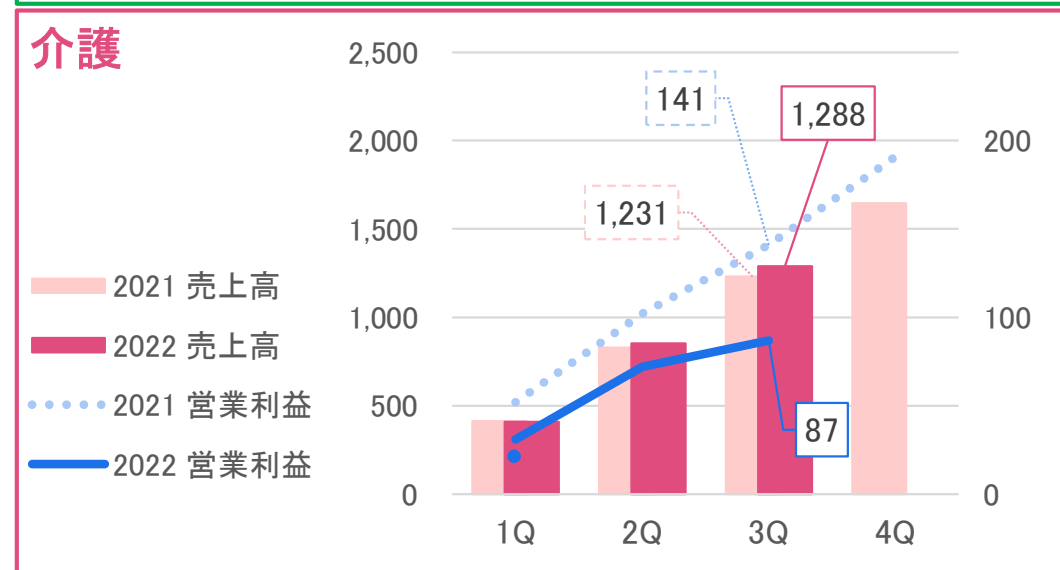
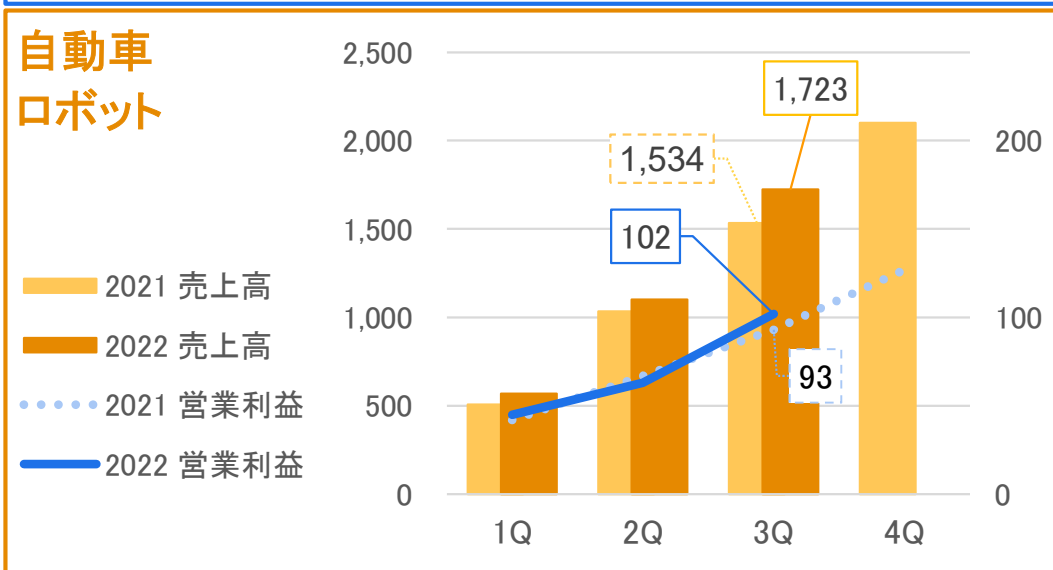
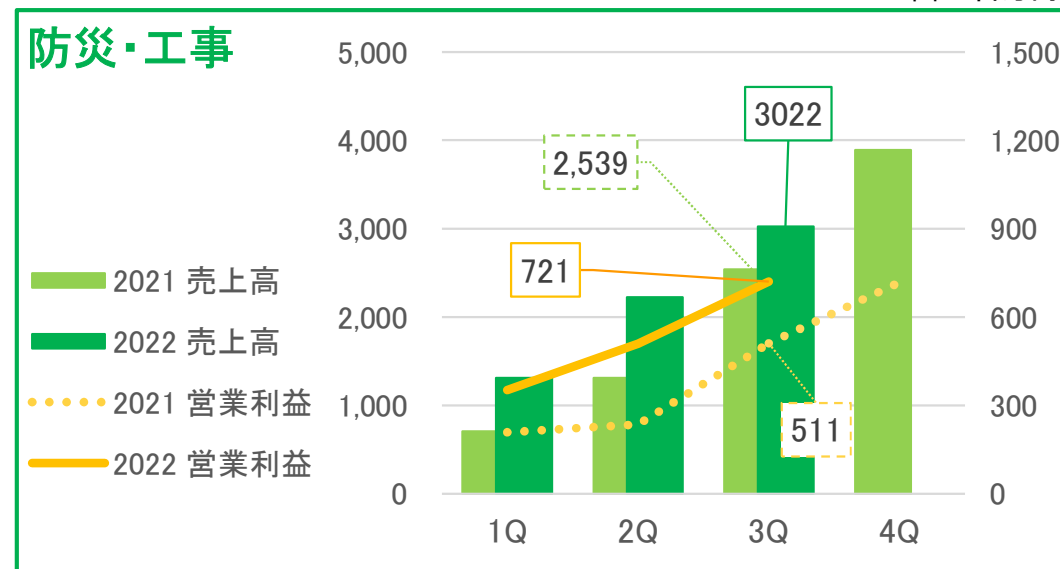
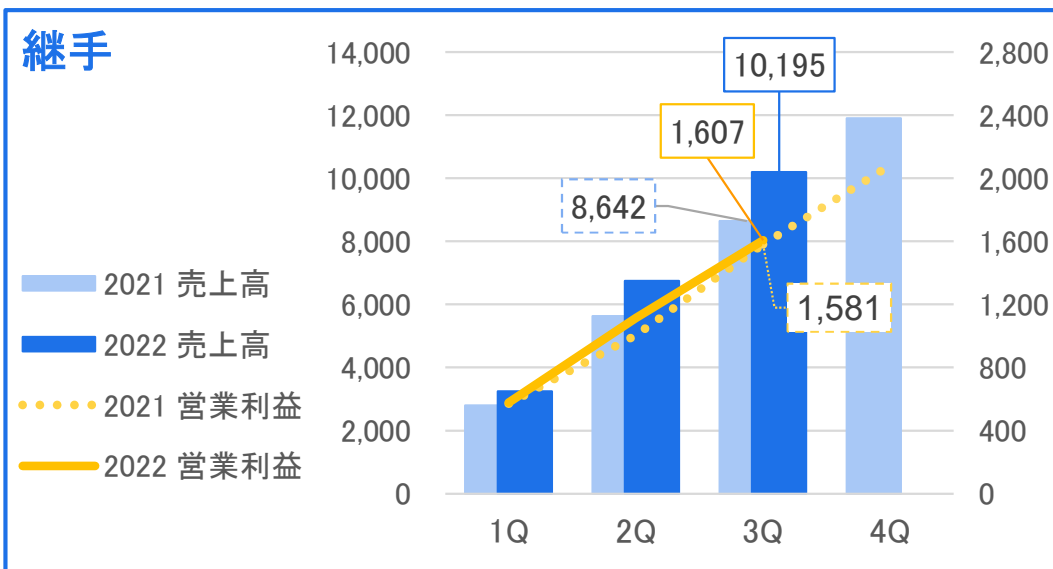
セグメント利益



2022年12月期 第3四半期 セグメント業績 前年同期比(累計)

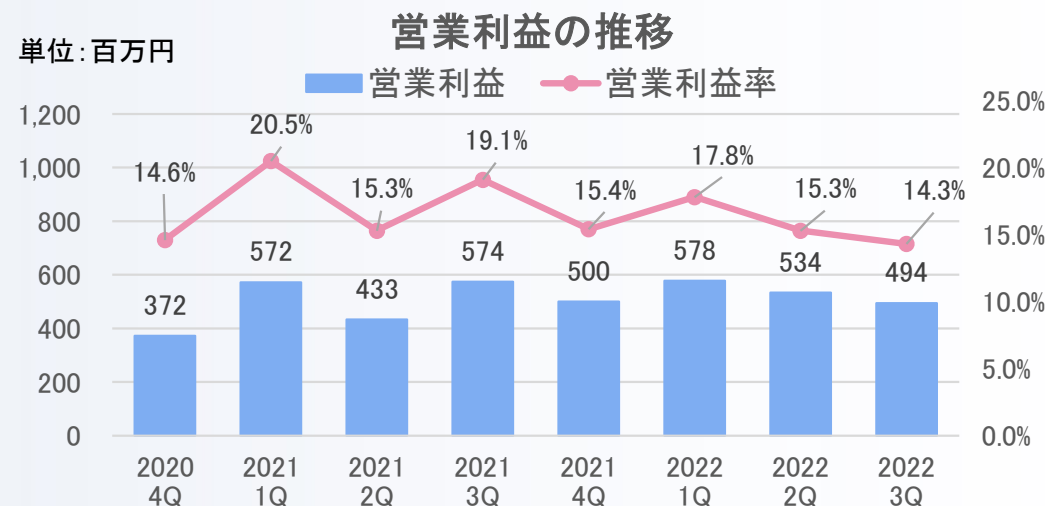


単位:百万円



- 累計売上高は、4つの事業セグメント全てが、前年同期比プラスとなりました。
- 累計営業利益は、継手、防災・工事および自動車・ロボットの3つの事業セグメントが、前年同期比プラスとなりました。

◆ 継手事業(1)



- 売上高は、全体的に好調が続いており、セグメント内の4事業全てで、前年同期比プラスとなりました。
- 営業利益は、円安要因を含む原材料価格の高騰から利益率の低下が生じていますが、売上高の増加から、前年同期比プラスとなりました。

➤ フレキシブル継手

- ✓ 当期3Qは、新潟県村上市における降雨災害と、中国天津市における新型コロナウイルス感染拡大によるロックダウンから、神林工場と天津工場が一時操業停止となりましたが、売上への影響は軽微でした。
- ✓ 原材料価格高騰のため、当期2Qに続き当期3Qも一部製品の値上げを実施しました。
- ✓ スプリンクラー用と、一般産業分野の製品が、引き続き好調です。
- ✓ 水道分野では、コロナ禍で低迷していたSDF工法用(老朽化した水道本管の交換用)の売上が回復し、当3Q終了時点で前年通期の売上高を上回っています。

◆ 継手事業(2)

➤ 伸縮管継手

- ✓ 上期に発電所向けの売上が好調であったため、前年同期比プラスで推移しています。

➤ 真空機器

✓ 半導体分野

NAND型メモリー工場の設備工事で、半導体製造装置の搬入遅れによる工事遅延がありましたが、その他の半導体製造装置向けの出荷が好調であり、半導体分野全体では良好な進捗となりました。

✓ 長尺ホース(チラーホース、クライオホース)

期初から好調なクライオホース(極低温用)が、当3Qも売上を伸ばしています。

✓ 海外向け出荷(上海工場)

3月から5月に掛けて、中国上海市における新型コロナウイルス感染拡大によるロックダウン(都市封鎖)の影響を受けましたが、その後は回復し、当期3Qに前年同期比プラスとなりました。

➤ 防災用貯給水タンク

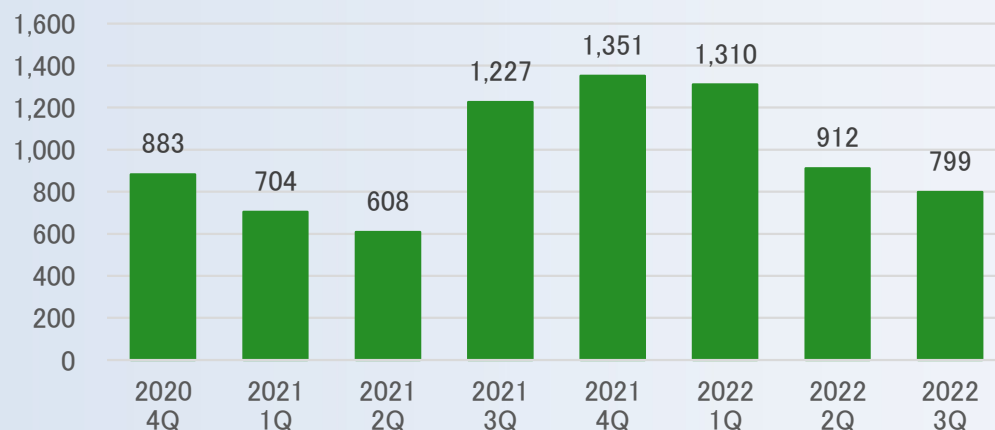
- ✓ 当期4月1日付で、防災用貯給水タンク事業を営んでいた連結子会社(株)アクアリザーブを吸収合併し、事業セグメントを、防災・工事事業から継手事業に変更しました。

- 以上のことから、継手事業の前年同期比は、売上高+1,553百万円(+18.0%)、営業利益+26百万円(+1.7%)となりました。

◆ 防災・工事事業

売上高の推移

単位:百万円



営業利益の推移

単位:百万円

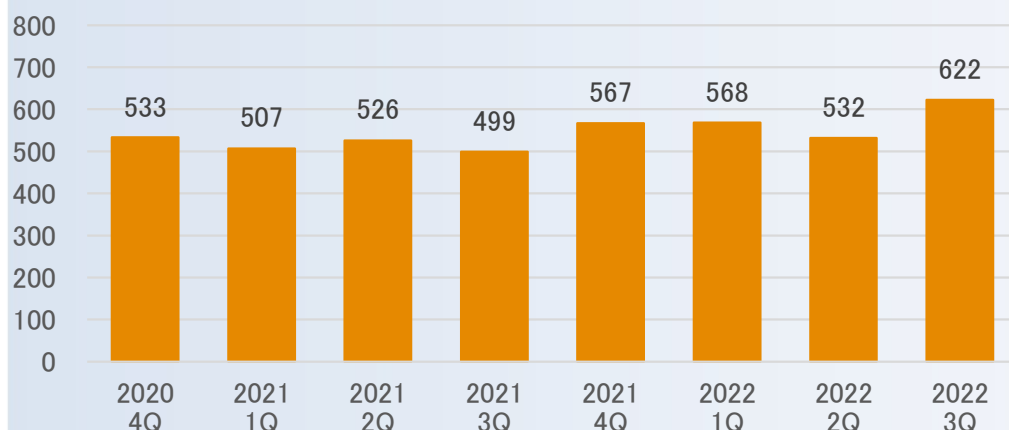


- 防災・工事事業は、売上計上のタイミングから四半期業績に変動が生じますが、当期は大幅な増収増益となっています。
- 当期は、利益率の高い案件を順調に売上計上でき、営業利益率は、前年同期の20.1%から3.8%向上し、23.9%となりました。
 - 消防設備工事は、首都圏再開発の大型工事が多い状況が続いており、受注高は堅調です。
 - ✓ 当期1Qに、高利益率の案件を複数売上計上したため、当期は大幅な増収増益で推移しています。
 - ✓ 当期3Qにも、高利益率の案件が完成し、利益率が高まりました。
 - ✓ 販売管理費の減少も、増益要因となりました。
- 以上のことから、防災・工事事業の前年同期比は、売上高+482百万円(+19.0%)、営業利益+209百万円(+41.0%)となりました。

◆ 自動車・ロボット事業

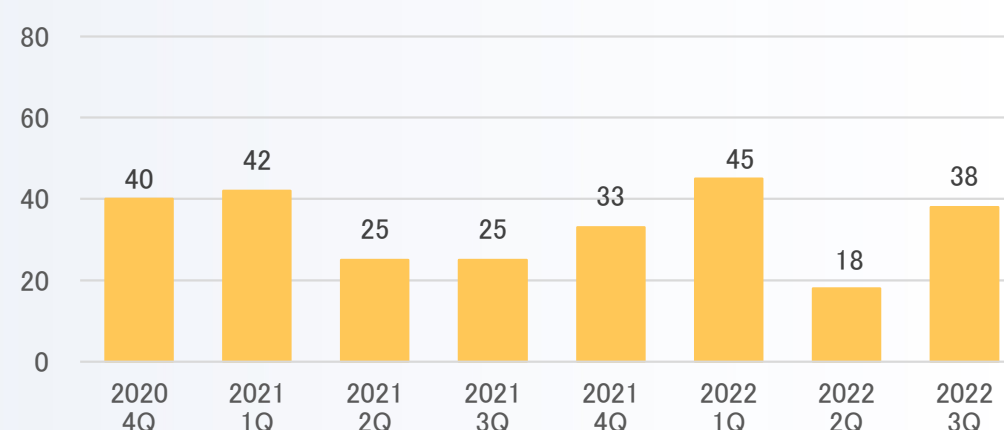
売上高の推移

単位:百万円



営業利益の推移

単位:百万円



- 自動車分野は、半導体不足等の影響から、前年同期比で売上高が小幅に減少しましたが、ロボット分野は、需要が更に拡大し、売上を大きく伸ばしたため、セグメント全体で増収増益となりました。
 - 自動車分野
 - ✓ トラック向けの金属部品が順調に伸びていますが、半導体不足等による自動車メーカーの減産影響から、自動車分野全体では、前年同期比で小幅なマイナスとなりました。
 - ロボット分野
 - ✓ ロボット分野は、引き続き需要が拡大しており、増収増益を継続しています。
- 以上のことから、自動車・ロボット事業の前年同期比は、売上高+189百万円(+12.3%)、営業利益+8百万円(+8.8%)となりました。

◆ 介護事業



- 当期は、事業承継と吸収分割により、他社から介護事業を取得しましたが、その効果が未だ売上高の微増に留まっているため、事業取得費用が減益要因となっています。
 - ✓ 当期1Qに、事業承継により介護事業を営むSUN福祉工房(宮城県塩釜市)を取得し、当期3Qに、吸収分割により株式会社ユーユーワールド(栃木県宇都宮市)の介護事業を取得しました。
 - ✓ それぞれの介護事業取得費用を支払った1Qと3Qに、営業利益が減少しています。
 - ✓ また、レンタル原価の上昇など、事業取得費用以外の減益要因も生じており、介護事業の取得効果促進とコスト削減が急務となっております。
- 以上のことから、介護事業の前年同期比は、売上高+25百万円(+3.1%)、営業利益▲30百万円(▲29.9%)となりました。

2. 2022年12月期 業績予想

2022年12月期連結業績予想 SUMMARY



◆ 連結業績予想

単位：百万円

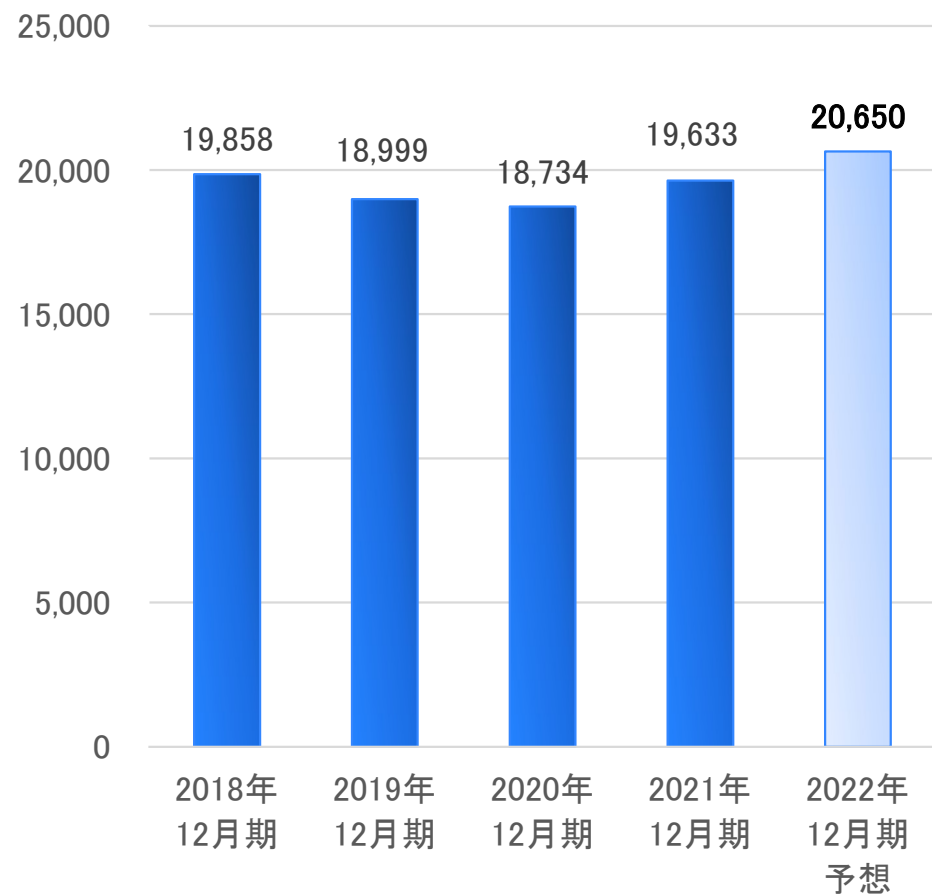
	前期2021年 通期業績	当期2022年 通期業績予想 (前年同期比)	当期2022年 3Q累計業績 (進捗率)
連結売上高	19,633	20,650 (+5.2%)	16,306 (79.0%)
連結営業利益	2,615	2,500 (▲4.4%)	2,143 (85.7%)
親会社株主に帰属する 当期/四半期純利益	1,718	1,850 (+7.6%)	2,020 (109.2%)

- 上期の業績予想につきましては、2022年7月14日付の適時開示「業績予想の修正に関するお知らせ」にて、上方修正しておりますが、通期の業績予想につきましては、原材料価格と為替の変動が大きく先行き不透明な為、予想値の算定が困難なことから、期初に公表いたしました通期業績予想を据え置いております。今後、上記の通期業績予想と大きく異なる場合には、適時に開示して参ります。
- 連結業績予想では、連結営業利益の予想を前期比マイナスとしております。これは、前期に消防設備工事で利益の上振れがあったことと、当期に千葉工場の拡張工事が開始されることを勘案したためです。これに対し、当期は、消防設備工事の営業利益が前期を上回っていることと、千葉工場拡張工事が遅れて着工したことから、通期計画比の進捗率が高くなっております。
- 親会社株主に帰属する当期純利益の進捗率が高いのは、株式会社アクアリザーブとの合併で生じた税効果によるものです。
- 市場環境は、概ね良好な状態が続いておりますが、原材料価格と為替の変動は依然として厳しい状況でありますので、通期業績予想を達成すべく、4Qも引き続きコスト削減と利益増加に努めて参ります。

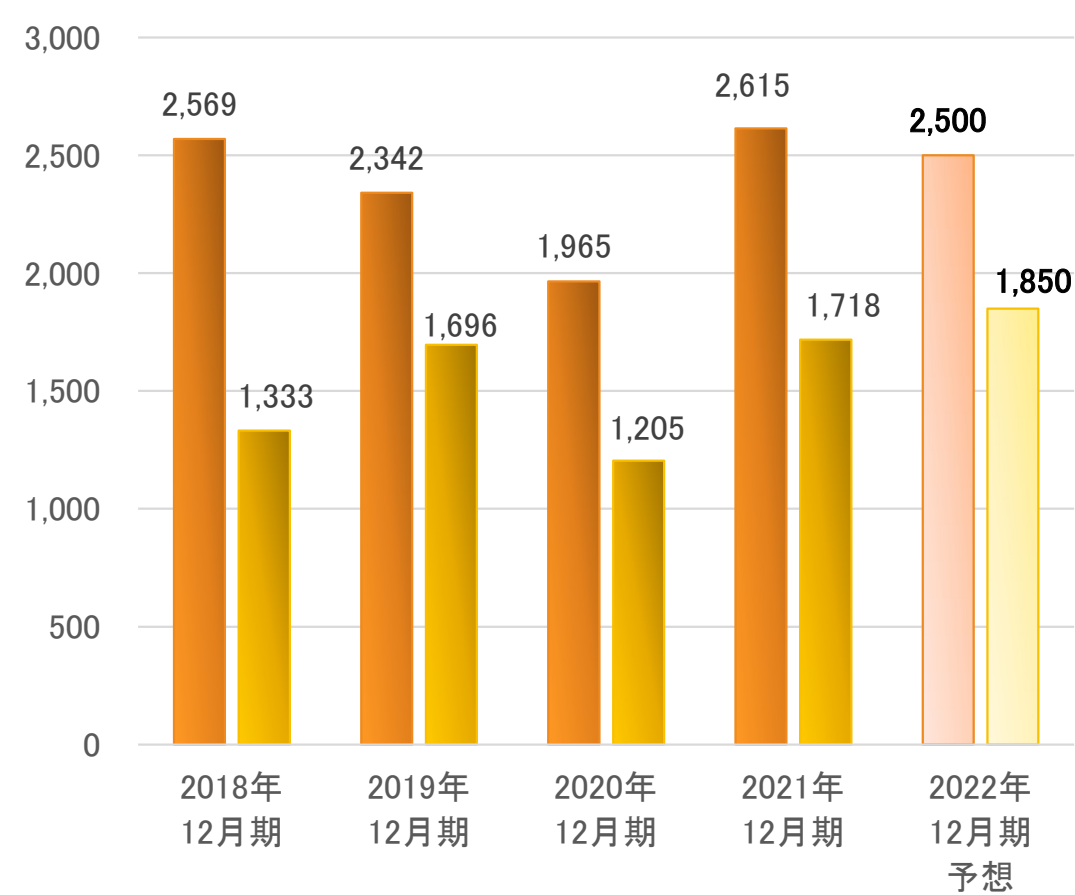
2022年12月期連結業績予想(直近4年間の実績と比較)



単位:百万円



単位:百万円



◆ 継手事業

- 全体的に良好な推移となり、引き続き売上高が増加する見込みです。
- 利益は、原材料価格の高騰と円安の影響から厳しい状況が続くものと思われませんが、コスト削減と販売価格の変更によって影響を抑え、売上高の増加に伴う利益の増加を目指して参ります。
- フレキシブル継手
 - ✓ スプリンクラー用、一般産業用が良好に推移し、全体的に好調な売上を維持する見込みです。
- 伸縮管継手
 - ✓ 上期は大型案件の出荷が多かったため、上期との比較では、下期の出荷が減少しておりますが、引き続き受注環境は良好な見込みです。
- 真空機器
 - ✓ 半導体分野は、上期に開始されたNAND型メモリーメーカーの大規模な設備工事が、下期売上にも寄与する見込みです。
 - ✓ クライオホースは、下期も順調に売上を伸ばす見込みです。
 - ✓ 中国の上海工場は、上海市ロックダウンの影響から脱し、更に売上を伸ばす見込みです。
- 防災用貯給水タンク
 - ✓ 戸建住宅用の「マルチアクアS」に加え、BCP用の新製品「マルチアクアC」の拡販に努めて参ります。

◆ 防災・工事事業

➤ 消防設備工事

- ✓ 首都圏再開発の大型工事が多い状況は、今後も続く見込みであり、受注高は堅調です。
- ✓ 案件ごとの進捗、利益率により、四半期ごとの収益には、今後も増減が生じるものと思われます。

◆ 自動車・ロボット事業

➤ 自動車分野

- ✓ 自動車メーカーでは、部材等の供給遅延による減産が、今後も発生するものと思われませんが、引き続き堅調に推移する見込みです。

➤ ロボット分野

- ✓ 需要は拡大傾向にあり、ロボット市場の成長と共に、売上が増加するものと思われれます。

◆ 介護事業

➤ 介護用品のレンタル事業

- ✓ 当期に実施した事業承継と吸収分割による増収を見込んでおりますが、それらに伴う販売管理費の増加等があり、利益率の改善に努めて参ります。

3. SDF工法の状況

SDF工法の状況



【SDF工法 当期の状況】

SDF工法による水道本管の更新工事は、新型コロナウイルス感染症の拡大により減少しておりましたが、当期は急速に回復に向かい、当社が製造するSDF用フレキシブルチューブの売上高は、当期3Q終了時点で、前期2021年の通期売上高を上回りました。当期4Qの受注も良好であり、当期の売上高は、コロナ禍前の2019年を上回る見込みです。

SDF工法の潜在的市場は大きく、近い将来の成長事業と捉え、当社では、製造設備の増強を行う等の準備を進めております。

【SDF工法とは】

- 老朽化した水道本管を、効率よく更新する工法です。水道本管の内側に、新たにフレキシブル継手を通して更新するため、地面を掘削して老朽化した水道本管を取り出す必要が無く、短時間で施工できます。
- 交通量の多い大通りや線路下等の、掘削することが困難な場所で施工できることも特徴です。
- 日本では、戦後急速に水道が普及したため、それらが一斉に交換時期を迎えておりますが、更新のペースが追いついていません。そのため効率良く更新できるSDF工法が注目されつつありましたが、コロナ禍以降は工事が減少していました。

SDF技術協会

当社はSDF技術協会に加盟しています。

(SDF技術協会ホームページ) <http://www.sdf.gr.jp/>

(SDF工法の説明動画) http://www.sdf.gr.jp/img/SDF_pv.mp4



SDF用
フレキシブルチューブ

挿入位置

到達位置



挿入位置の様子



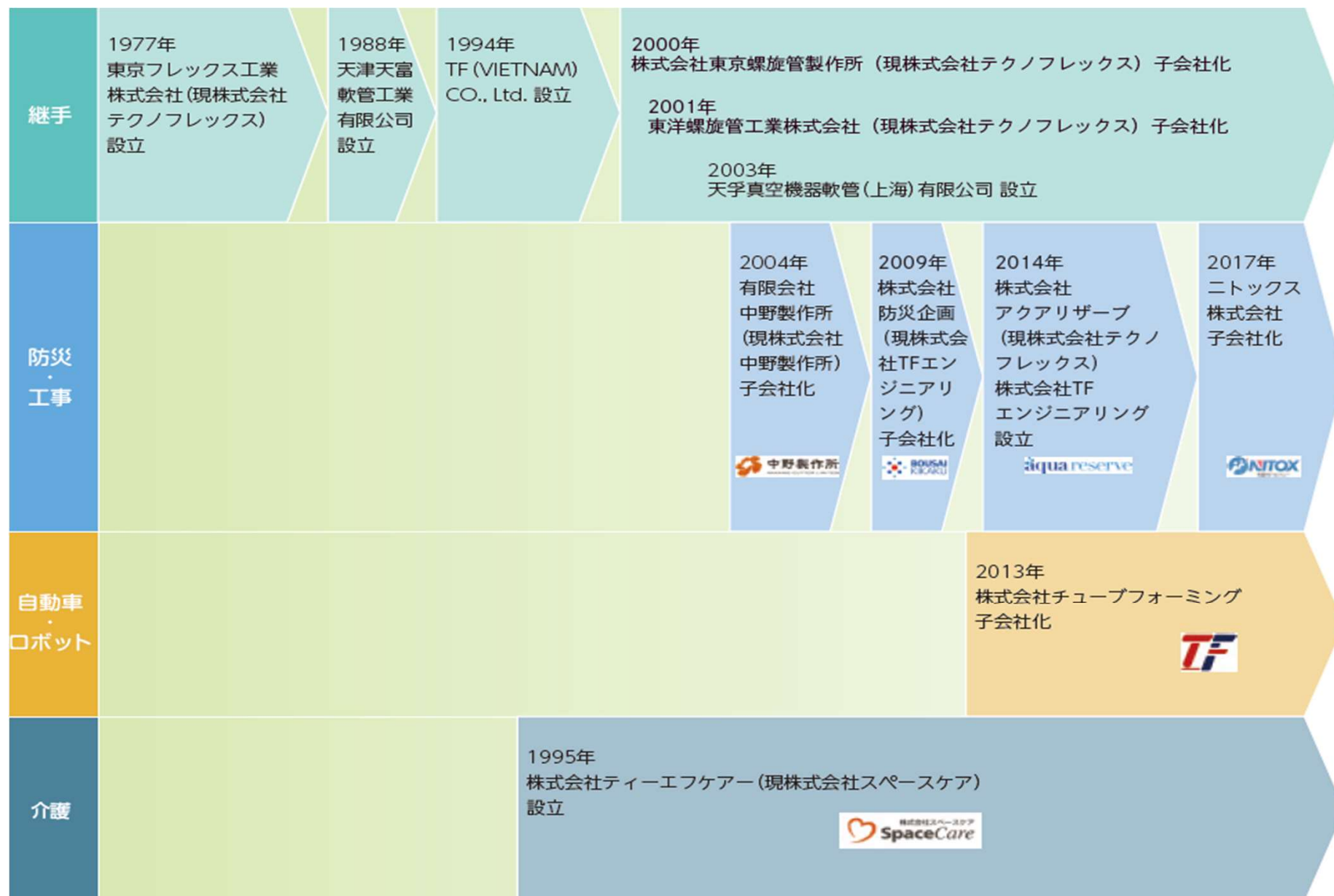
到達位置の様子

写真は、東京都の銀座で施工された工事の様子です。挿入位置の縦穴から、SDF用フレキシブルチューブを埋設された既存の水道本管に挿入し、到達位置までの水道本管を更新しました。

到達位置側では、ワイヤーでSDF用チューブを引き出しています。

(補足資料) テクノフレックスの概要

会社名	株式会社テクノフレックス
代表者名	代表取締役社長 前島 岳
本社所在地	東京都台東区蔵前一丁目5番1号
資本金	10億円(2022年6月30日現在)
設立日	1977年8月
決算期	12月決算
事業内容	継手事業 / 防災・工事事業 / 自動車・ロボット事業 / 介護事業
従業員数	単体:374名(2021年12月31日現在) 連結:1,006名 ※臨時雇用者を含む



皆様の生活とのかかわり



◆ テクノフレックスグループは、「生活インフラ」「産業・先端技術」「防災」「介護」の4つの分野で、皆様の暮らす社会を支える事業を展開しています。

生活インフラ

- 水道・ガス
- 水道本管に挿入されるSDFフレキ
- エネルギー
- H₂ Station
- 水素ステーション

産業・先端技術

- 半導体
- 半導体工場
- 医療機器
- MRI装置
- 自動・無人化
- 産業用ロボット

介護

- トイレに後付けされた手すり
- リフォーム
- 介護用ベッド・補助具
- 販売・レンタル
- いつも清潔な介護用品
- リネン

防災

- 断水時にマルチアクアから取水
- 風水害
- インテリジェントビル
- 地震
- スプリンクラー消火設備
- 火災

TECHNOFLEX GROUP

※ 上記の分野は、当社グループの事業を、皆様の生活に係る4つの分野に整理したものであり、当社の会計上の事業セグメントとは異なります。

当社グループの4つの事業セグメント



① 継手事業



③ 自動車・ロボット事業



② 防災・工事事業



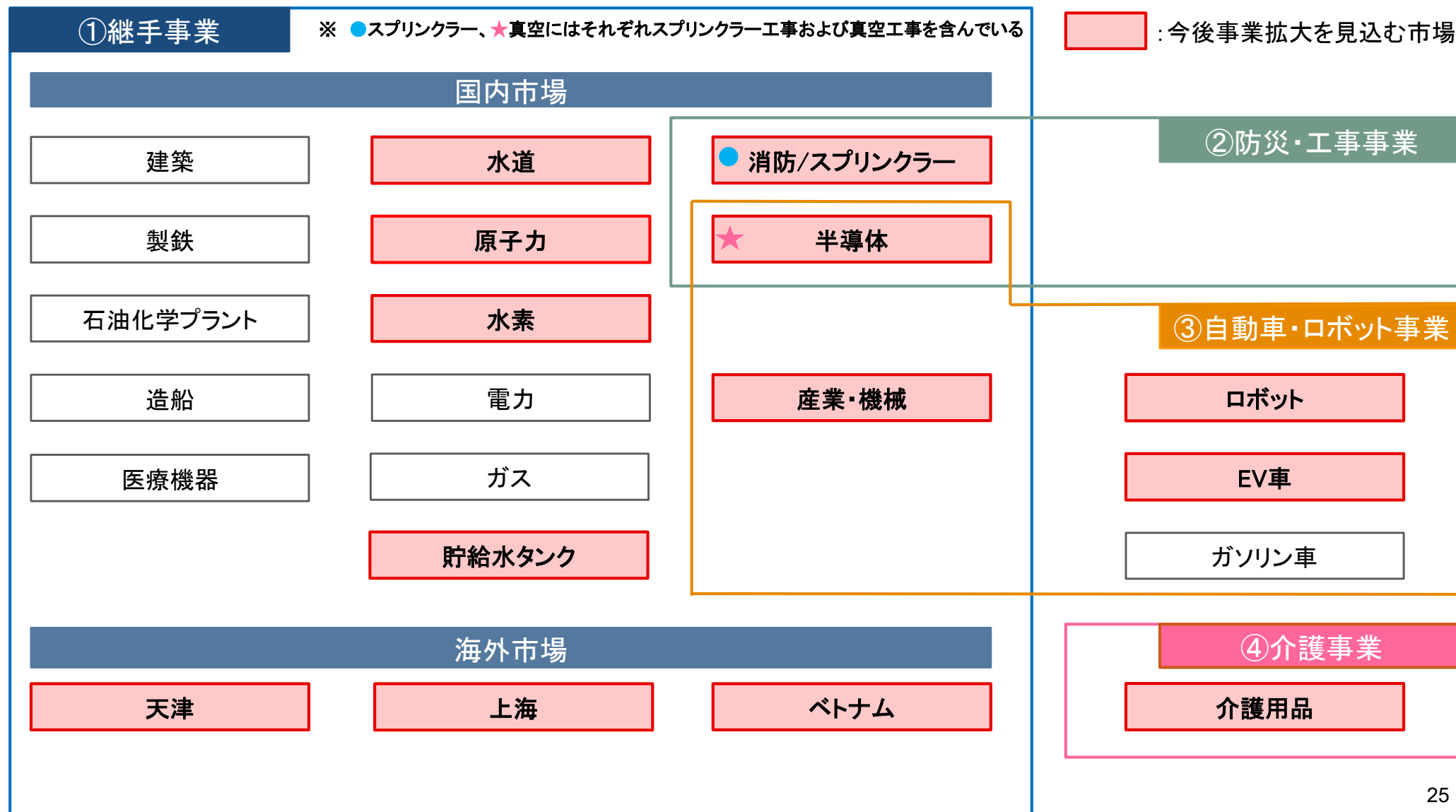
④ 介護事業



マーケットと 4つの事業セグメント



- 当社グループがターゲットとするマーケットは多岐にわたりますが、特に事業拡大を見込む市場としては水道、原子力、水素、消防/スプリンクラー、半導体、産業・機械、貯水タンク、ロボット、EV車、介護用品、海外市場が挙げられます。



- ◆ 管継手 : 管と管のつなぎ目
 - 固定式 : T字型・L字型など固定形状の継手
 - 可撓式 : 継手自体が曲がったり伸び縮みしたりできる継手

テクノフレックス

◆ テクノフレックスの管継手は大きく3種類

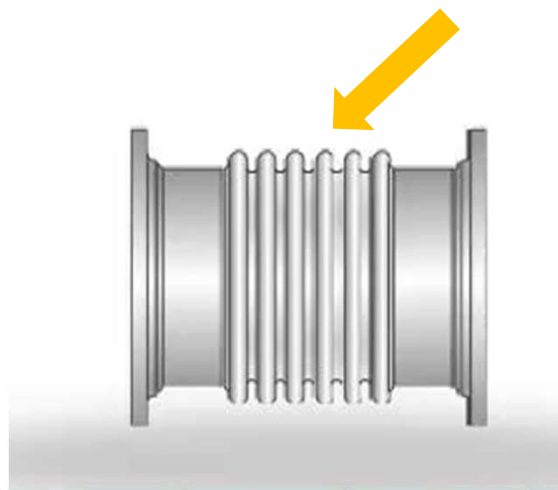
【フレキシブル継手】

全体が曲がる継手



【伸縮管継手】

波状の部分で伸縮が可能



【真空機器】

真空配管用の継手・金属部品



事業セグメント 1 継手事業 ①フレキシブル継手

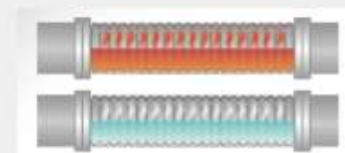
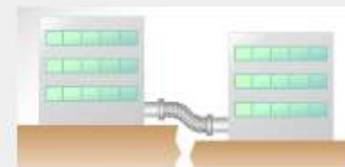


- ◆配管作業を容易に ▶ 作業効率向上。経験の浅い作業員でも設置でき、人手不足の解消にも貢献。
- ◆耐震性 ▶ 地震への対策から、耐震性の需要が高まる。

町のあちこちに
テクノフレックス



変位吸収



機械的な動作に
対応



振動吸収



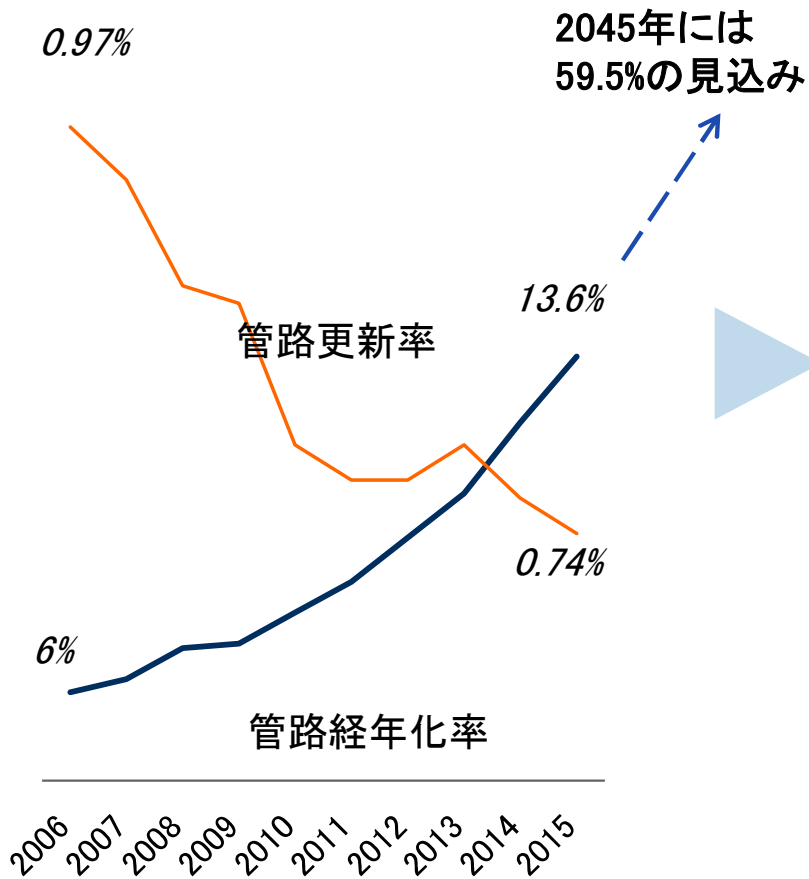
作業効率



大地震で曲がっても
オイル漏れの無い
フレキシブル継手の例



水道の老朽化は進む一方で、
管路更新が進んでいない。



SDF工法

- 掘り起こし困難な場所に最適。
- 既存の水道管の中を通して補修。

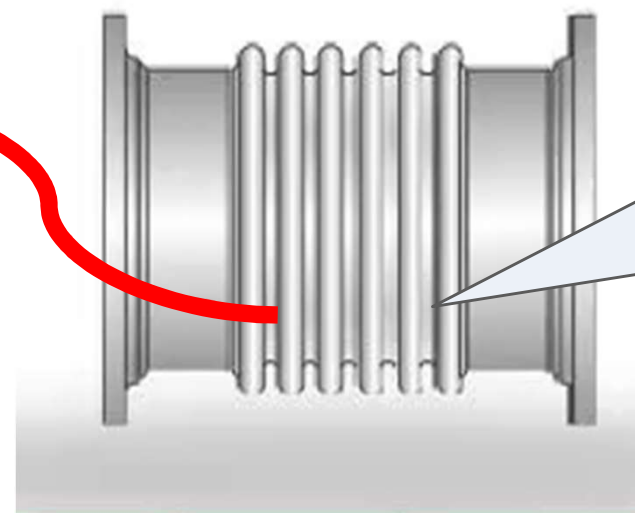


SDF工法向けにフレキ管を供給

第1回インフラメンテナンス大賞
(厚生労働大臣賞)

- ◆ 地震や熱膨張など、様々な負荷から設備機器と配管を守ります。
- ◆ 耐震性に優れ、配管の破損や脱落による流体漏洩等の2次災害を防止。
- ◆ 設置場所

エネルギー関連	石油・化学プラント、電力プラント、LNGプラント、LNG船、水素ステーション、水素運搬船など。
ライフライン	ガス・水道など。
大規模産業設備	製鉄プラントなど。



波状の部分が、伸縮します。角度を付けることもできます。

- ◆ 真空配管とは、微細なゴミも嫌う設備などに設置されるクリーンな配管のこと。
 - 真空機器の製品は、厳しい検査に合格した、気密性に優れた製品。
 - ステンレス製の継手は、組織を均一化するため、熱処理を施す。
- ◆ 製品供給に加え、配管の設置工事・プレハブ加工も一括で受けられるのが、当社の強み。
- ◆ 使用用途

半導体製造装置、FPD製造装置、真空ポンプ、医療機器、医薬品・食品工場などの機械装置

装置間の真空配管

真空ポンプの配管

温度調節用の配管(チラーホース、クライオホース)

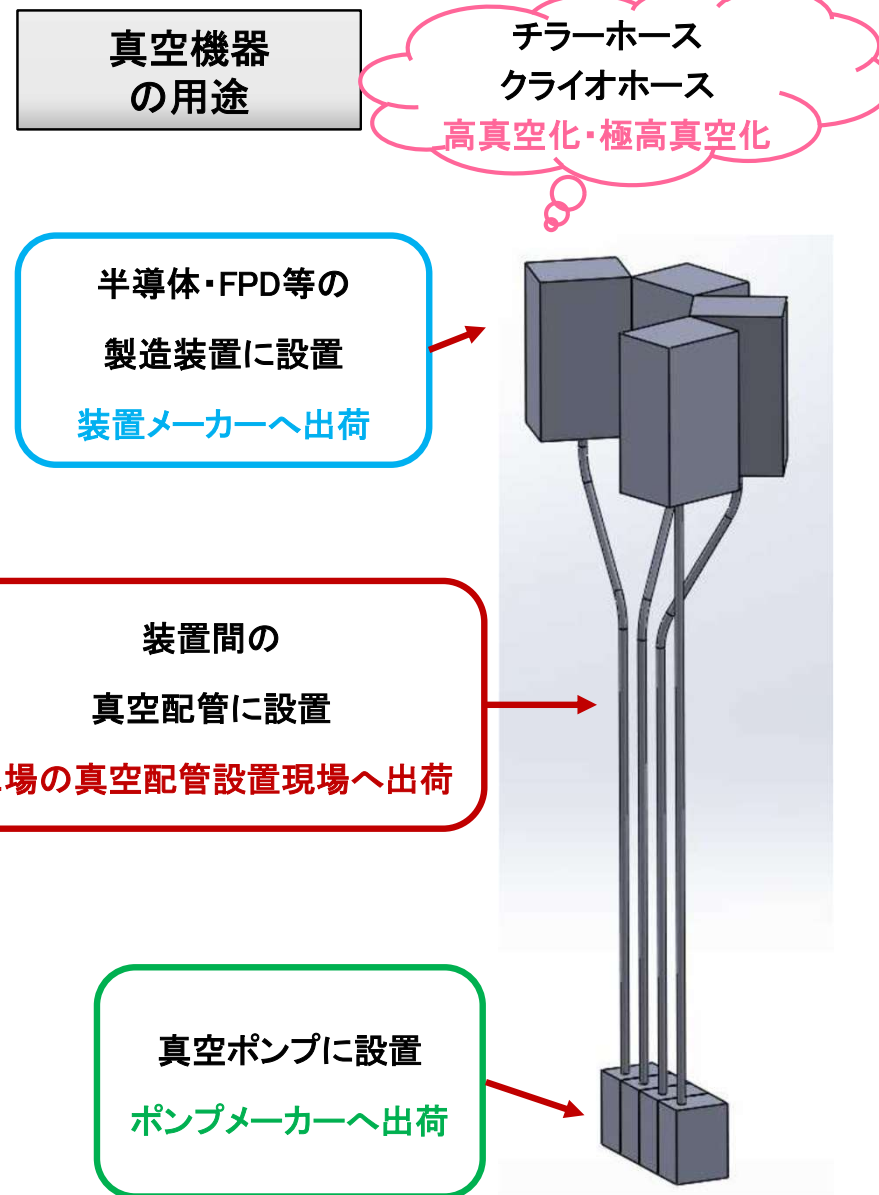


● 当期の状況

- ◆ 世界的な半導体需要の高まりから、半導体製造メーカーによる工場の新設や製造ラインの増設が活況。
- ◆ 半導体の製造(特に前工程)にはクリーンルーム等の真空空間が必要なため、真空ポンプと真空配管を設置。
 - 真空機器の需要が拡大。
- ◆ 当社の真空機器は、半導体・FPD等の製造装置用、真空ポンプ用、装置間真空配管用の3つの用途で、使用。
- ◆ 真空配管の設置工事と工場でのプレハブ加工も請け負っており、製品と工事の両面でサポート。

● 成長イメージ

- ◆ 真空配管は、半導体のみならず、様々な分野の工場で需要が増加。
- ◆ 高度な医療用の診断装置に設置。
- ◆ チラーホース、クライオホースのマーケットシェア獲得。
 - ※ 低温・極低温の空間をつくるための冷却用長尺ホース。近年は加温でも使用。半導体工場等では、高真空・極高真空の空間をつくるためのクライオポンプとクリーンルームとをつなぐ配管に設置。



防災用貯給水タンク「マルチアクア」

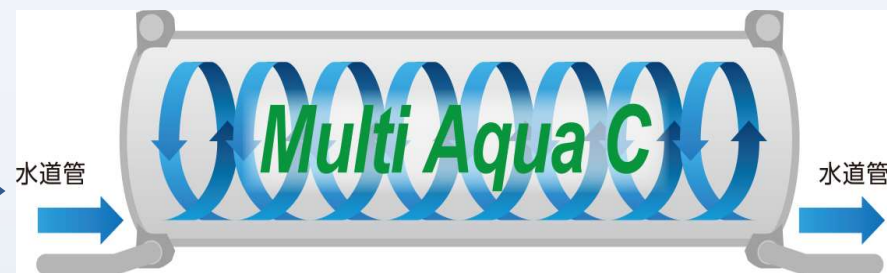
- マルチアクアは、平常時には、給水配管（水道管）の一部として機能しながら貯水を行い、災害等による断水時には、直前まで貯水されたタンク内の水道水を供給する、貯給水タンクです。
- 水道水を使うたびに、マルチアクア内に新しい水道水が貯水されます。そのため、備蓄水のように、消費期限の管理や交換を行う手間が生じません。
- 災害発生時には、飲用の他、傷口の洗浄等にも水が必要です。傷口の洗浄には水道水が適しているとされており、マルチアクアは、飲用にも傷口の洗浄にもご活用いただけます。
- 戸建住宅用には、設置場所に困らない、床下収納の開口部から床下に設置できる製品もございます。
- ペットボトル等の樹脂製容器の使用を削減する効果がございます。サステナブルな社会の実現に、貢献して参ります。



戸建住宅用には、床下収納の開口部から床下に設置できる製品もございます。

タンク内の水が循環して常に新しい水を貯水します。

企業のBCP向け新製品「マルチアクアC」。



Multi Aqua C

マルチアクア

3つの“守る”



- ◆ 配管を軸に、川下戦略による防災・工事事業への参入。
- ◆ 防災・工事事業には、2つの事業。

消火設備の配管工事 配管のプレハブ加工

- スプリンクラー等の消火設備の配管工事
- 工場で行う配管のプレハブ加工



自動切断機

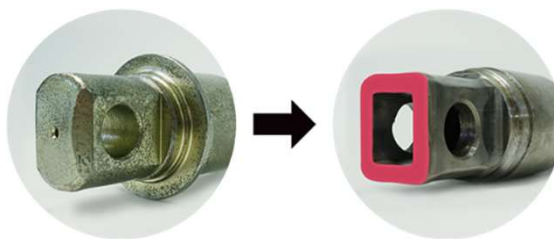
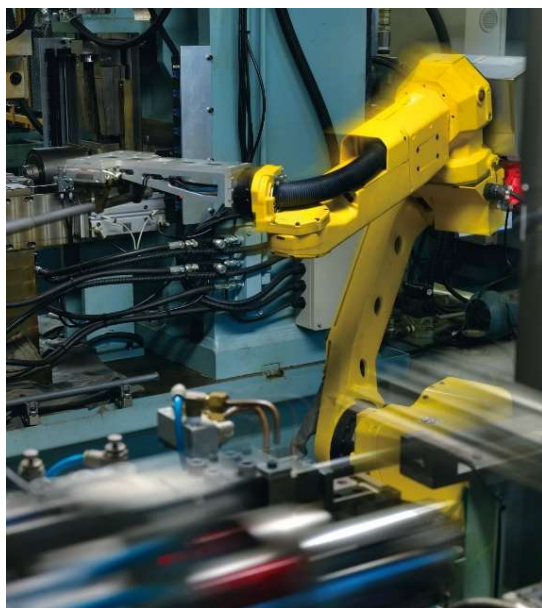
水道管及び電柱の 切断装置

- 自走しながら配管や電柱を切断。
- 東京都が推奨する無電柱化に貢献。



自動車・ロボット事業

- 金属塑性技術を生かした、金属部品の軽量化、材料費の低減及び強度増。
- 多くの自動車メーカーで使用。
- ロボット分野の需要拡大。
- 半導体工場等の機械装置用部品にも採用。



従来製品

パイプ化製品

介護事業

- ケアプランに沿った福祉用具レンタル
- 福祉用具の販売
- 介護用マットレスの洗浄
- 住宅バリアフリー化工事
- 介護サービスの創造



テクノフレックスグループの将来を見据える上で重要なキーワード



■ 当グループを取り巻く環境に大きなインパクトを与える重要キーワードを5つピックアップしました

重要キーワード	市場にもたらす変化	該当セグメント
1 気候変動等による災害増加に対する 防災意識の高まり (国土強靱化計画)	✓ 防災設備需要の拡大 ✓ 国民の防災意識の高まり	✓ 継手事業 ✓ 防災・工事事業
2 戦後日本が築いてきた 社会インフラ老朽化対応 (水道の老朽化対応、都市再開発)	✓ 水道整備関連の予算拡充に伴う取替需要増加 ✓ 都市再開発に伴うビル等の建替需要増加	✓ 継手事業 ✓ 防災・工事事業
3 AIと自動化 (5G商用化、ロボティクス)	✓ 半導体市場の拡大 ✓ ロボット市場の拡大	✓ 継手事業 ✓ 自動車・ロボット事業
4 クリーンエネルギー (脱炭素化、脱ガソリン、脱エンジン)	✓ エンジン搭載車の減少、EV化 ✓ 化石燃料以外の燃料(水素等)の輸送・貯蔵 ✓ クリーンエネルギー設備増設	✓ 継手事業 ✓ 自動車・ロボット事業
5 ヘルスケア (地域包括ケアシステム推進)	✓ 在宅介護が支援されることによる、各家庭向けの福祉用具需要の高まり	✓ 介護事業 ✓ 自動車・ロボット事業

国内マーケットの動向サマリ(1/3)



- 産業・機械と電力は成長、製鉄、石油化学プラント、ガスは低迷を予想しています
- 建築は、中長期的には需要拡大が見込まれるものの、働き手離職等のリスクがあり、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
継手	建築	✓ 中長期的には都市再開発や防災対策に伴う需要を見込めるものの、働き手の大量離職等の不安要素があり下振れのリスクあり
	製鉄	✓ 主要販売先である造船・航空機について今後低迷が予想されることや、EV化により鉄の必要量が減少する可能性があり、今後の見通しは厳しい
	石油化学プラント	✓ 石油化学製品の供給過多やプラスチックに対する規制強化等により、石油化学業界にて積極的な設備投資を期待することは難しいため、低迷傾向が継続するリスクあり
	産業・機械	✓ 半導体等の成長産業での設備投資が見込まれる。 ✓ メインユーザー層である中堅・中小企業の設備投資は冷え込む予想。
	ガス	✓ 人口減少や温暖化対策等による需要減少リスクあり
	電力	✓ 政府の推進する再生エネルギー導入拡大に向け、送電インフラ整備に伴う設備投資需要が見込まれることから、今後の見通しは良好

国内マーケットの動向サマリ(2/3)



- 消防・スプリンクラー、水道、半導体、水素は成長、造船は低迷を予想しています
- 原子力は堅調予測ですが、再生エネルギーの動向次第で縮退するリスクがあり、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
継手	造船	✓ 将来的には水素運搬船に期待が持てるが、当面の間は、コロナの影響により輸送量が減少し、外部環境としては厳しい見通し
	消防スプリンクラー	✓ スプリンクラー設置義務の課される大型施設の新設が引き続き見込まれること、及び過去に設置したスプリンクラーの取替需要が見込まれることから、今後の市場動向は明るい見通し
	水道	✓ 水道管路の老朽化が進んでおり、今後の更新需要が期待される ✓ 成長ドライバーであるSDF工法に対する需要も今後増加見込み
	半導体	✓ 当社グループのターゲットとするメモリーの市場規模は今後右肩上がりに成長見込み ✓ NANDシェア上位5社による大規模設備投資が進行中。
	原子力	✓ 政府による原子力活用の提言により、当面の需要は堅調予測 ✓ 一方で再生エネルギーの成長状況により、将来的には稼働が抑えられ縮退するリスクもあり
	水素	✓ 水素燃料の市場規模が今後拡大していくことに伴い、今後の見通しは良好
	貯給水タンク	✓ 個人/法人の備蓄水に対する需要の高まりや、災害時の一時滞在施設の設置推進の動きにより、今後の需要は拡大の見通し

国内マーケットの動向サマリ(3/3)



- 消防設備工事、貯水タンク、ロボット、介護事業は成長、ガソリン車は現状維持を予想しています
- EV車は成長見込みの一方、低価格化や社会インフラ整備といった課題を有するため、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
	防災・工事	<ul style="list-style-type: none">✓ 半導体工場、データセンターの増設により、消防設備工事が増加✓ 都市の再開発による建物の高層化・大型化で、消防設備工事が増加
自動車 ロボ ット	ガソリン車	<ul style="list-style-type: none">✓ 自動車需要は世界的に高まりを見せる一方で、EV車の割合が増加していくことから、差し当たっては緩やかな増加/横ばい傾向が予想される
	EV車	<ul style="list-style-type: none">✓ 脱炭素に向けた動きもあり、今後大きく伸長する見通し✓ 一方で低価格化や社会インフラ整備などの課題もあり、普及が遅れるリスクもあり
	ロボット	<ul style="list-style-type: none">✓ 自動車を中心とした低価格化の要請に応える形で需要を大きく拡大していく見通し
	介護	<ul style="list-style-type: none">✓ 少子高齢化の進行に伴い、今後の需要は引き続き伸長していく見込み✓ 高齢者人口の増加と併せて、中国で廉価な福祉用具が流通しており、国内販売市場を開拓できる余地あり

2022年12月期 第3四半期決算



補足説明資料 - 完 -

株式会社テクノフレックス
証券コード:3449